

旭岳

志村 良知

もう50年以上前のこと。北海道最高峰の旭岳にロープウェイの姿見駅から無装備のまま登頂。さらに徒歩で麓まで下りてきたことがある。頂上での写真を見るとコットンパンツに薄手のセーター、スニーカー、肩掛け鞆。

当時帯広に住んでいた兄の許を訪ね、車を借りて北海道ドライブをしていた時のことで、姿見駅からの2291mの旭岳は故郷の3000m峰に比べると単なる丘に見えた。装備も食糧も無いまま頂上まで行き、一気に徒歩下山してしまった。その時、ヒグマとか天候急変のことを考えたのかどうか記憶さえもない。さらに翌日反対側の黒岳にも登ってしまったのだから呆れる。

今年6月、旭岳温泉の宿に着いたとき旭岳は見えなかったが、3時過ぎに雲が切れたので熊鈴を借り、ハイキング装備で出かける。出発駅で時間を調べると最終便で帰るとして上で約1時間半ある。姿見の池までは行ってこれそう。登り便の客は私たちだけ、姿見駅の無人の展望台で旭岳の煙を見ていると、ピッケル装備の若い外人さんカップルが帰ってきた。「この装備の私たちでも、姿見ポンドまで1時間で行って帰ってこられるだろうか?」「それは分らない」と愚問に賢答。しかし「道は悪くなく雪も無いよ」という補足。

案内板の標準タイムで動けば最終便に間に合う。よし、行くか、家内も覚悟を決めて行くという。高山植物が咲き乱れる急な登りで息が切れる。途中の案内板で標準タイムより早いことが確認でき、キバナシヤクナゲを探す余裕も生まれる。姿見の池にはかなり早めに着いた。家内も付いてきた。偉い。残雪の池とバックの煙を吐く山は絶景で満足。登った証拠の写真撮る。夕焼けの富良野の広大な平原を見下ろし、写真を撮りながら下り、最終一本前に乗る。

宿の湧駒荘は、泉質の違う源泉かけ流しの浴槽が15あり、浴槽巡りが名物である。

ロビーの暖炉も良い雰囲気です。料理も美味しい。女子スノボのソチ五輪銀メダリスト、竹内智香選手の実家だそうである。

(Oct 10 2024)